

安全・安心な自給粗飼料生産技術確立試験(1)

誌名	宮崎県畜産試験場試験研究報告 = Bulletin of the Miyazaki Livestock Experiment Station
ISSN	09187278
著者	鈴木, 淑恵 小畑, 寿 藤井, 真理
巻/号	17号
掲載ページ	p. 42-46
発行年月	2004年12月

安全・安心な自給粗飼料生産技術確立試験

(1) シバ型草地の簡易造成法の検討

鈴木 淑恵¹⁾・小畑 寿・藤井 真理

(1) 東臼杵北部農業改良普及センター)

Establishment of Techniques of Utilization and Cultivation for Self-supplied Feed

(1) Establishment of Turf-type grasses

Yoshie SUZUKI, Hisashi OBATA, Mari FUJII

〈要約〉シバ型草地の造成期間を短縮するため、シバ型草種であるセンチピードグラスと生育の早い暖地型牧草との混播を検討した結果、播種2か月後には混播した暖地型牧草での草地利用が可能となった。

本年度はセンチピードグラスの被覆率については調査できなかったが、混播した草種の定着率と被覆の経過、適当な播種適期について結果を得た。

試 験 方 法

表1 試験概要

試験内容	① 混合割合	② 播種適期	③ 播種晩限
試験地	場 内 圃 場		
供試品種	シバ型草種：センチピードグラス		
	暖地型牧草：ローズグラス（アサツユ）		
	ギニアグラス（ナツコマキ）		
試験面積	1.5m×1.5m		
播種量	3 kg/10a		
播種方法	散 播		
施肥	たい肥：3 t/10a		
	基肥：なし		
薬剤	使用なし		
設置試験区	混 合 比	播 種 日	播 種 日
	A 15%	A H15. 5.19	H15. 7.10、23、31
	B 30%	B H15. 6.11	
	C 45%	C H15. 7.10	H15. 8.13、20、29
		D H15. 8.20	

1 混合割合の検討

混合割合として15、30、45%を設定し、播種量3

kg/10aに対してセンチピードグラスを混合した。

定期的に草丈、雑草との競合等を観察しながら暖地

型牧草の刈り取りを行い、センチピードグラスへの日射を妨げないよう管理を行った。

センチピードグラス草地を造成するためには、いつ頃までに播種すべきかを検討するため、定着率からその晩限を調査した。

2 播種適期の検討

混合割合の検討と同時に5月から8月にかけて計4回の播種を行い、定着率や雑草競合の点から播種の適期を検討した。

試験結果及び考察

表2にローズグラス区、表3にギニアグラス区の調査結果を示した。

3 センチピードグラスの播種晩限調査

5月播種の区では7月23日、8月6日、8月29日、

表2 ローズグラス区の調査結果

播種時期と混合比		7月23日		8月6日		8月29日		10月3日	
		草丈(cm)	雑草割合	草丈(cm)	雑草割合	草丈(cm)	雑草割合	草丈(cm)	雑草割合
5月播種	15%	82	5	87	0	104	5	83	0
	30%	63	0	74	0	108	5	77	0
	45%	75	0	77	0	102	2	83	0
6月播種	15%			77	15	107	40	94	10
	30%			97	20	97	40	86	10
	45%			101	10	92	10	91	0
7月播種	15%					109	5	94	0
	30%					101	5	91	5
	45%					103	5	94	0
8月播種	15%							53	60
	30%							61	40
	45%							69	3

表3 ギニアグラス区の調査結果

播種時期と混合比		7月23日		8月6日		8月29日		10月3日	
		草丈(cm)	雑草割合	草丈(cm)	雑草割合	草丈(cm)	雑草割合	草丈(cm)	雑草割合
5月播種	15%	61	60	62	10	86	5	101	25
	30%	66	60	67	5	78	5	91	20
	45%	72	50	60	0	92	2	89	10
6月播種	15%			72	70	74	60	78	40
	30%			90	60	71	10	96	10
	45%			95	30	84	3	95	5
7月播種	15%					88	5	93	5
	30%					95	3	96	5
	45%					98	3	103	5
8月播種	15%							46	35
	30%							55	3
	45%							66	0

10月3日の計4回刈り取り、6月播種の区では3回、7月播種の区では2回、8月播種の区では1回のみの刈り取りとなった。

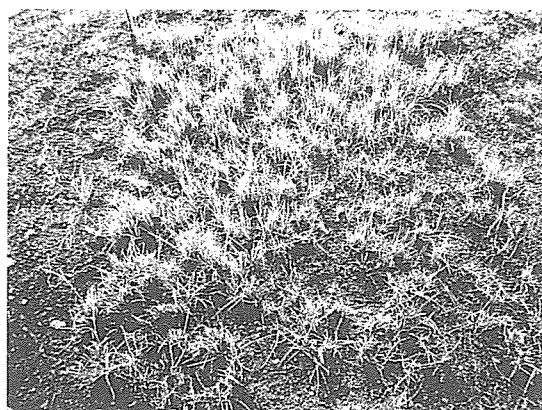
雑草の混入割合に注目するとローズグラスでは5月播種と7月播種では10%未満で安定して少なく、ギニアグラスでは7月が少なかった。草地造成において、初期に雑草との競争を避け、管理の省力化を図るためにも雑草の混入はできるだけ抑制すべき項目であり、ローズグラスでは5月または7月、ギニアグラスでは7月が播種適期と考えられた。

越冬前の被覆率調査結果を表4に示した。

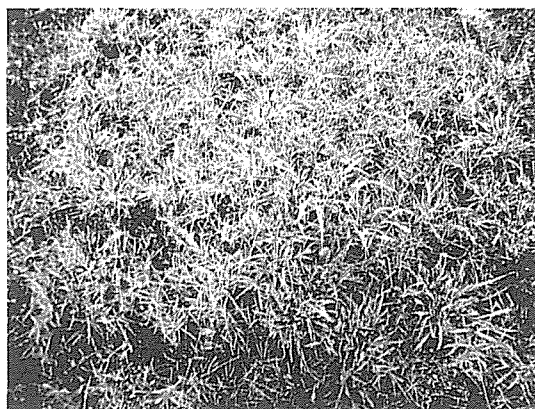
11月14日に越冬前の最終調査として、センチピードグラスと混播した暖地型牧草を含めた被覆率を調査した。その結果、播種時期が早いほど被覆率は高く定着も良好であった。また、センチピードグラスの混合割合についても比率が高いほど被覆率が高くなる傾向は見られたが大きな差はなかった。

表4 越冬前の被覆率

播種時期	ローズグラス			ギニアグラス		
	15%	30%	45%	15%	30%	45%
5月播種	90	95	98	50	80	90
6月播種	75	75	75	70	75	65
7月播種	65	70	65	70	70	60
8月播種	40	45	60	50	50	65



5月 ギニア 15%



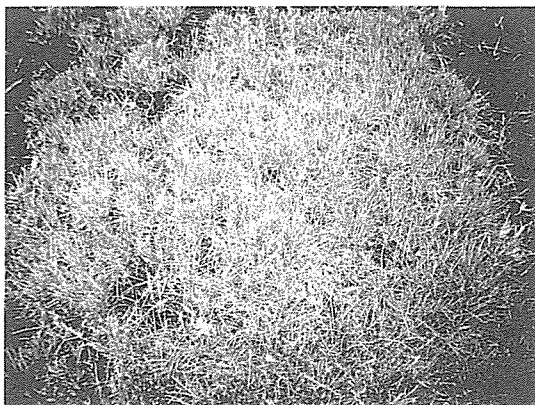
6月 ギニア 15%



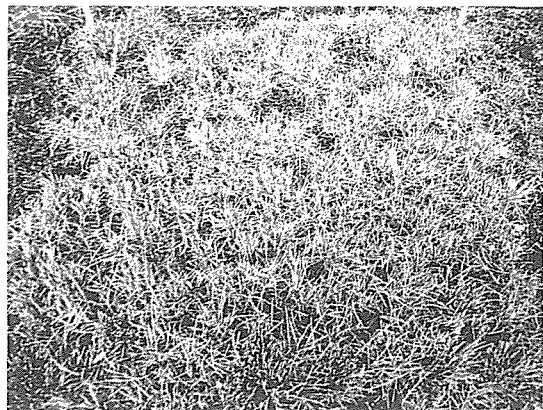
7月 ギニア 15%



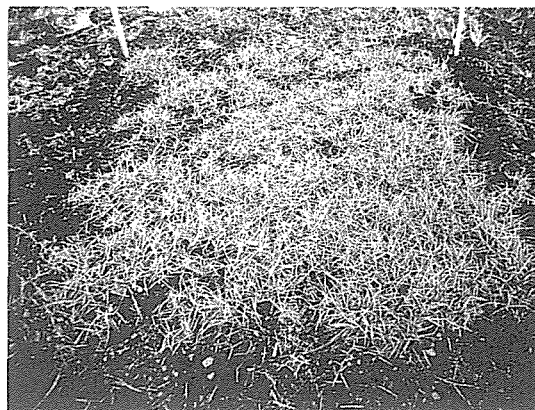
8月 ギニア 15%



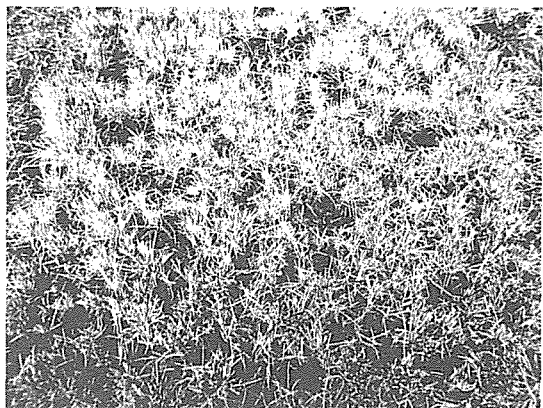
5月 ローズ 15%



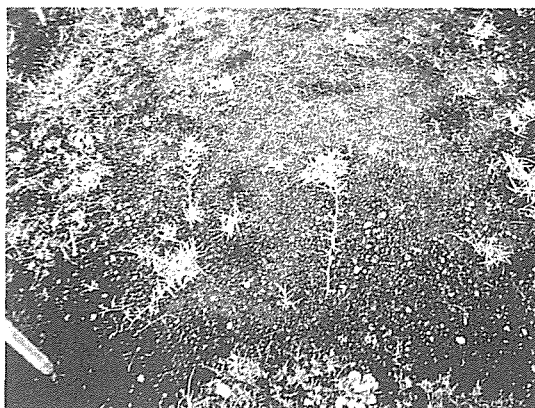
6月 ローズ 15%



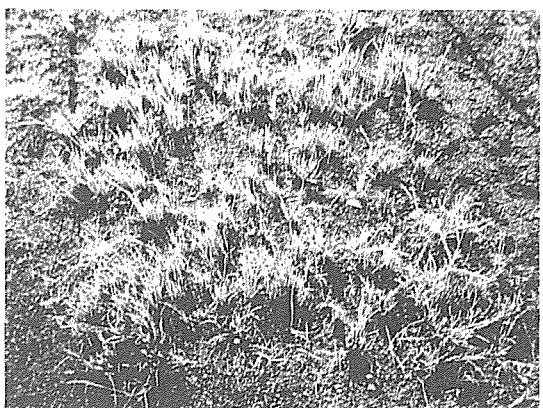
7.10 播種



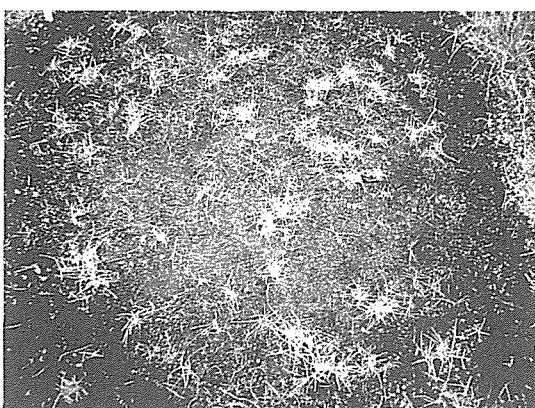
7月 ローズ 15%



7.23 播種



8月 ローズ 15%



7.31 播種

センチピードグラスの播種晩限については、以下の写真で示すとおり7月上旬までが適当と思われた。



8.13 播種



8.20 播種



8.29 播種

センチピードグラス草地の造成には、過去の調査結果から早くても1年程度は必要であるが、今回の調査から生育の早い暖地型牧草と混播することで播種から約2か月後には放牧利用が可能と考えられた。

本年度は造成初年目でセンチピードグラスの被覆率、定着率については調査できず最適混合割合については次年度以降の調査結果を得て評価するが、越冬前の暖地型牧草を含めた被覆率に大きな差が見られなかったことから、高価な種子であるセンチピードグラスの割合は15%程度でも十分と予想された。

以上の結果から、造成初年目には暖地型牧草主体で草地を利用し、2年目以降シバ型主体草地へとスムーズに造成できると考えられた。